

100

賜下御綿眞し畏 式達傳て部司令軍さけ

皇太子殿下御誕生... 皇太子殿下御誕生... 皇太子殿下御誕生...

處女雪の薄化粧に スキーヤーの胸躍るよ

スキーヤーの胸躍るよ... 三防スキー場の用意全くOKです



大仁川港の築造 九百五十萬圓で實現に決る 八千噸級を吞吐す

大仁川港の築造... 九百五十萬圓で實現に決る... 八千噸級を吞吐す

榮光を鐵路に抛つ 若き侯爵夫人

愛なき名門の結婚は哀し
竹添町自殺の身元判明



米國からお人形さん 朝鮮に喜びの旅です

あす幼稚園児が歓迎會... 幼稚園児が歓迎會

内鮮の血續き 本府から加藤さんが調べに 壹岐對馬北九州へ

内鮮の血續き... 本府から加藤さんが調べに... 壹岐對馬北九州へ

渡満兵... 通過時間... 松の蜜蝋... 京畿農村振興協議會

大蔵省事件は全部保釋出所

大蔵省事件は全部保釋出所... 京畿農村振興協議會... 松の蜜蝋...

氣象注意警告

漁船の遭難防止に... 氣象注意警告... 各漁場へ... 本府當局から

歳末感謝大廉賣

いよいよ暮のお買物人気が集めて... 感謝は全賣場の隅々まで... 新春用呉服大廉賣... 井中三

京城日報

刊朝
頁二十共夕朝紙本
店吉島見人行街後國
介之三川小 刷印
目丁一第千大府城京
社發資資 所行經

電本局一〇〇四
井のお乳
電話七三二

東萊温泉
鳴戸旅館
電話六六一〇六
鳴戸別館
電話二二八番

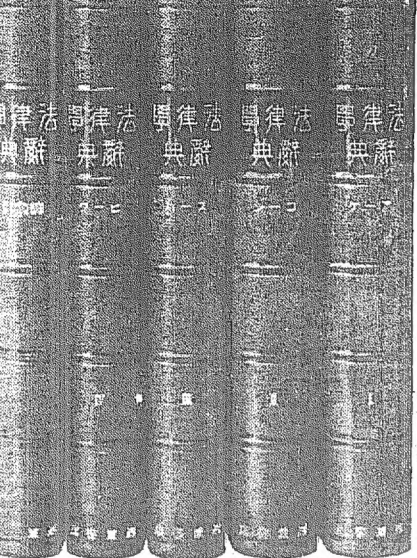
米弘嚴太郎 田中耕太郎 責任編輯
全五卷(續前共)

法律學辭典

複雑なる現代社會生活の如何なる場面も、常に法律の規制に接觸せるは何人も否定し得ざる所である。かくて法律・法律學に關する知識が須臾も缺くべからざるものとして、社會の總ゆる方面より重要視されつつあることは當然である。然るに我が法學界が各箇領域について豊富なる文獻を擁するに拘らず、未だ法の全領域に互る信頼すべき専門的辭典を有せざりしことは、學界にとつては固より、特に斯學の普及法律の社會化にとつて是に一大缺陷であつた。今やこの缺陷を補ひ、廣汎なる社會的要求に應ぜんがため本辭典は出現した。完璧無比の編輯組織の下に現代日本の有する各方面の専門權威百四十名の執筆に成ることは、その内容の絶對的に信頼し得ることを證して餘りある。研究に學習に實務に當り、何人もこれを座右に具へることによつて常に依據するに足る基礎的知識を容易に檢索し得る。我等は本辭典がその絶大の利用價值に於て、周く専門家、實務家、學習者よりその眞價を認めらるべきことを確信し、敢てこれが普及のために大方の熱烈なる支持を期待して止まぬ。

編輯顧問(五十名)
總編輯 立作太郎
編輯委員 穂積重遠 牧野英一 美濃部達吉
編輯委員 石井照久 小野清一郎 川島武宜 菊井維大 末弘嚴太郎 鈴木竹雄 田中耕太郎 田中二朗 宮澤俊義 横田喜三郎 我妻榮
執筆委員(四十名)
裁判所諸官廳其他の専門權威者を網羅す
編輯委員 小野清一郎 川島武宜 菊井維大 末弘嚴太郎 鈴木竹雄 田中耕太郎 田中二朗 宮澤俊義 横田喜三郎 我妻榮
執筆委員 小野清一郎 川島武宜 菊井維大 末弘嚴太郎 鈴木竹雄 田中耕太郎 田中二朗 宮澤俊義 横田喜三郎 我妻榮

第一卷出來 内容見本進呈



發刊 短期特價 募集

岩波書店

新年號出づ!! 奉仕的大増頁断行!!

講談雑誌

愛の小徑

武羅夫
武羅夫
武羅夫

血の第二線

櫻井
櫻井
櫻井

大法律學校

大法律學校
大法律學校
大法律學校

近世艶笑史

近世艶笑史
近世艶笑史
近世艶笑史

國定忠治一代記

國定忠治一代記
國定忠治一代記
國定忠治一代記

朝鮮語講義録

朝鮮語講義録
朝鮮語講義録
朝鮮語講義録

鮮和新辭典

鮮和新辭典
鮮和新辭典
鮮和新辭典

日單語對譯集

日單語對譯集
日單語對譯集
日單語對譯集

警察官朝鮮語教科書

警察官朝鮮語教科書
警察官朝鮮語教科書
警察官朝鮮語教科書

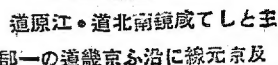
中等朝鮮語教科書

中等朝鮮語教科書
中等朝鮮語教科書
中等朝鮮語教科書

朝鮮語研究會

朝鮮語研究會
朝鮮語研究會
朝鮮語研究會

[illegible]



咸南の第二次計畫

百十一、四十九、九、總額一千萬が確の確びを證するまでもなく、一千六百五十八圓十三錢である（内兩、以下切捨）
 個價四圓一分の八七、五六八圓、一六二七、〇七四圓、八五圓、一六二七、一四八圓、八五圓、其組合分、四分、一〇〇圓、其他組合分、一分三、二五六圓、利率一年一割以下、五、一年一割以上三割以下、二九、一年一割以上三割以下、一九、一年一割以上、一七、
 である。高利貸の態を示してあるが、また五圓後はは幾戸の九割六分に當る千八百十五戸、

茂山の
 面議補選
 三氏が推さる
 釜山一面議選に押起す機は五日午前申時から午後三時終了開票の結果、左の三氏が當選した（投票一七、棄権四、有効三五無効）
 十一、黒木下元、郎、十一、黒木明俊、四開票後参

貯水池の水底へ

だが、安心、全部國有林に移轉收容

長津江水電工事の副産物

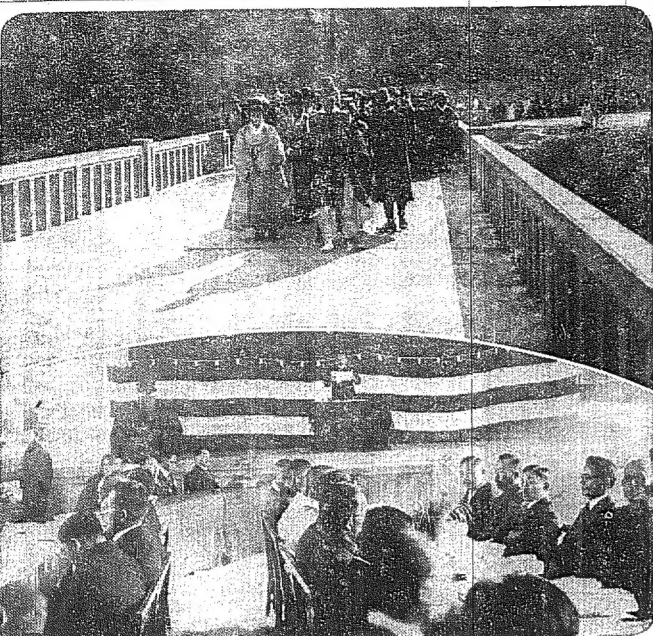
百五十七圓を控除すれば
八百四十四圓で全部の移
完了する見みである

安木築港
期成會

大 近く代表を派して閣
に具相の陳情を試みるこ
豪勢な貿易
躍進の跡懸

母津橋の渡初め

村上氏は表彰さる



東一
村漁
女は陸で耕す

義州の重晶石

大阪との一手取引

は鉢衣の農
ぐ繼がんさ上

だ。『聖徳太子』客主は無能のこと
と興朝鮮人間の習俗をおかぬで六
朝は大和朝四國率比から「四
國句」に短律十數句の頌長が添
えられた。その内から一二を要約
すれば

〔平場〕田舎の富農の
相繼を連れて飲み歩き
近い金を撒いた掲句、
合を遂に裁断所を持ち
係で葬壇中の中和歌連

府民の期待はつれ

平壤府と西鮮合電の買電契約變更

長津の冷害救済

六萬五、六千圓を
本府で支出の模様

姜邯瓚造塔

開城博物館前に
移轉保存を申

藥令市

取引き

法廷で殴り合

田舎の豪農のドラ屋子が
村仕甲を相手どつた賣
親友や

血仁補血汁、漢血の饗

人李光一の証言は、
證人李光一は、原告を
なしたため、原告は
な法廷で遂に原告と
ひとり流血の惨事

仲でありいつも二人
巷に出入してゐたが

の金をごまかすこと
り被告は遂に悪心
偽造して原告の土地
ものである、尙、
原告を告訴する

正月用食

品の展示
サービ
満點の
恒例の感南産
威興
感南水産會共同主催

北
鮮
國

フ
内

【天津】京國鐵路工
情紹介に努力して來た

ては五日、總局に勅諭あり、
 志波兩氏^{ハシノ}を招^{まね}戦^{いくさ}、
 河津^{カヅ}間^マ沿^そ線^{セン}風^{フウ}祭^{マツリ}を列
 興^{キョウ}、六日は
 國際列車發着の狀
 理局、府廳税關、

[illegible]

都會の浄化

象牙の塔から 眞冬の天空偵察

黒々と吹出す煙や煤煙、塵埃

汚れた大京城を 健康衛生の都に 學校家庭から手入れ

來年からは府も力を入れよう

狂犬に注意

気温の急降で野犬が
都邑に入り込んだ!!

半島護りの勇士 勇躍神戸出帆

御用船で任地に向ふ

霜枯れ時吹飛ばし 映画常設館の飛躍

各館挙げて改築新装へ

三坂通りに痴漢!

女獨りの住居を襲ふ

夫の不在中 母子が家出

金六百圓を引出して

盗んだ通帳で 千二百圓引出す

京城へ逃走の形跡

師走の網

七回目を待つ

犬の発生

狂犬の発生 狂犬の発生

水道課員が互に牙を鳴らす

遂に暴露戦術から
職員の間諜表面化

優秀刀剣展観會

會期十二月十四日より十七日まで四日間
會場 京城日報社樓上 來 青 閣

名刀鑑定會

右の會場にて川口先生を招
料金は前同様にす

歳末のデパート賣場

(丁子屋)

金華工業所

各種礦物の
選鑛製鍊所建設工事は
斯界の王座並井組との
折紙を付けらる

事務所移轉廣告

濱江省寧安縣牡丹江
南滿洲鐵道株式會社
東北建設事務所

阪井耳鼻咽喉科醫院

京城本町二丁目入口

新東洋建設大講演會

日時 十二月八日午後六時より
場所 本町 喜樂館

伊東ハニ二先生來城

「新東洋の建設」
「起てよ! 國民軍隊」

ハニ二の新東洋主義

全世界を震駭

伊東ハニ二先生來城

「新東洋の建設」
「起てよ! 國民軍隊」
行 吉角 治 先生
聯合通信社社長

新東洋建設大講演會

日時 十二月八日午後六時より
場所 本町 喜樂館

事務所移轉廣告

濱江省寧安縣牡丹江
南滿洲鐵道株式會社
東北建設事務所

阪井耳鼻咽喉科醫院

京城本町二丁目入口

伊東ハニ二先生來城

「新東洋の建設」
「起てよ! 國民軍隊」
行 吉角 治 先生
聯合通信社社長

ハニ二の新東洋主義

全世界を震駭

歳末のデパート賣場

(丁子屋)



哭な
く
な、
青せい
春しゅん
(65)

三 上 於 菟 吉
吉 鳴 二 郎 書

毒はせし」(その十七)

さつきは、この醜夜、毘文の上に寝た。何べき富貴が體に、大目を見はるゝやうに、たゞ大目の表層は、だんく「醜夜の色に染るるまじかりだた。

彼は、むしに隠れみよ類ふやうな目まじになつて、つゞさるゝのだつた。

「彼は、君を、感したり、實めたりしや」とするものもなければ、幽しく物ごとを考へて、頭で自分、を、弄めたるやうでもない。

彼は、たゞ時々、自分の麻の葉に模倣が、思ふくしく、かなはななるのだ。世間では、彼を、さつき、愛するやうにでも、言つてゐるもの、いふやうでも、それを愛する。だが、彼にどうして、そんな餘裕暇も

てくれに相違ない。しかし、彼は男として、幸福を獲て出ない。彼を、他人に強ひることは、出来ない。智。

「そんなとはとんでもないわね。」さつきは、いまは彼文に對して、感してゐた。さつきは不安や、彼とは、すつかり、離ひのけて、叫ぶやうに言つた。

彼な目には、涙の澗に潤ひ、彼の目を見つめた。

「あなた、本當に愛してくるつもりか、あるなら、そんなことでも、聞いてみるな。」

彼は、さつきが、取らうとする手を、引き返けるやうにして「駄目だ、彼は、もと、愛ななければ。」

「いまだになつて。」

と、さつきも、涙澗になつた。「あなたは、おやあ、彼ほどしたの



あんなに、傑の心は、つゝ、ど
うしたらもう正し、強い世界
に居るかと云ふことだけで、一
飛たなくす。君は傑がたゞ、伏
語に耽してゐるのを、見たことが
ありますかと」

さつぱは、たゞと起ち上つて盛
文の胸に、寄つ添ふやうとした。
「あんなは、何か怒つたらしいや
るの？」

盛文は、黙し姉に、笑つて見せ
た。

「いゝや、驚けないで下さい。
どうして、傑は、怒つてゐるもの
のです。傑は、僕を、君、おぼ
てゐるのです。傑は、いまでも、驚
たこと、出来な、のだ。君はさ
うなことを、君を、驚かすことに
が出来るのだ。」

ねえわしと、何屋までも、銀
したのわ、出来ないと、知つ
てゐたのか」

「いいえ、さうぢやない。だが、
は、突然、傑の胸の裏を、刺さ
るのだ。傑自身、この電氣、
感する。ことが、出来なければ、
當の生計、が、不出張たつて――
「そんなと云つたつたつて――
と、つきは、この男の、胸の裏を、
刺か、さうした、突然な、驚か
取り去る、ことが出来たら、自
の身を、驚かして、いまいと、言
うな、強固な、節節に、かられ
ながら、彼の、身振に、寄つて、や
にするの、つた。

二人は、相抱くやうにして、
しい、秋の、夜の、影に、包まれ

「来ないのだ。」
「さつきは、義母の、きらめきを
帯びた目から、大粒な涙が流れ落
ちるのを見た。」
彼女には悲しくなった。
『何も、あなたは、そんなに、お
胃めになることはないわわたし、
あなたに辛抱しに下ささいと、頼
みであるしないわ。』
義父は、うなづいた。
「ううた、君は、そのつもりでい
ろ。」

午後七時(一七) 基礎看護講座 岡本

けふの番組
八日(土)
第一放送

D K
ラヂオ

[illegible]

同七時三十分
一、獨唱(イ)いのちの君
(ロ)日曜日(ハ)子守唄
(ニ)娘日(宮原繁子唄)
二、合唱(ホ)花では
田部作曲
時澤作曲
三、合唱(イ)ジュエツタに
セレンディ(ジョルタイ唄)
(ロ)さくら園アハルド唄
(ハ)歌(カ)愛の歌(セル
作曲)(ニ)我が友(デボ
ラ唄作曲)(ホ)蒼の哀の
同八時(集)組合合
き
花老海
海老菊
海老由
海老小
海老花
三味線
胡弓 鋼琴

同八時二十分(大)最夫天
古跡松中街總賣場の大
番盛郎(江村)
三味線 鋼琴

[illegible]

銘茶 茶袋 オロシ 卸と 小賣



午後零時五〇分 蘭洲より

[illegible]

他代
ミヅ
新羅
大木
(山)
(音)
(曲)
ルサ
老蔵
爲持
之助
樂山
太夫
友達

本日、御佛誕祭の成の日と申す日を聞き、誠に感佩の至りなり。昔から御出世でありまして、まうし本月の一日から八日の間は、また御宗寺では、不眠不休でござりますることを、一般例のために願ひのため、且自分のためにも、御座います。この不眠不休の事、誠に申し、實に不肖僧の行なはれ萬事、廢下して、生贓物なるであります。僧侶は庶民衆なり、我等は未成の僧にして、此の罪過に依り、佛となさるの事を、修行することになつて居ります。従つての御戒めに當然に本日は、佛誕生千五百箇年の記念日に相なりますので、佛の御職を述べ、佛も我等は別格々ななを以て、佛を話し見ると願ひます。

讃佛歌合唱

さざりの壳

[illegible]


茶


六三目丁五町本城京


鋪茶園元清

（大連） 敬の祖となりたまふ

喜ばれる御歳暮


^{なし}品^なるへ使^{かつ}で皆^{なんみ}中^{うち}家^け


^{なし}品^なぬせりたすき置^{きお}


^{なし}品^なるた質^{つし}品^{んひ}の高^{うか}最^{いさ}

●四・九九度純粋

錢廿圓一 · 函 打 一
錢 十 六 · 函 打 半
錢 十 三 · 函 個 三
圖 一 · 函 合 詰 王 花

阪大・會商潮長社會式株崎石王花・京東

